

地域と学校の 協働通信

令和6年6月24日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
第19号

特集

- 開かれ委員・地域コーディネーター委嘱式
- モデル校（境南小・第一中）の報告
- 地域コーディネーター連絡会

5月28日「開かれた学校づくり協議会」委嘱状等交付式 地域コーディネーター委嘱状交付式 を実施しました

今年度も、上記の交付式を実施しました。当日は、台風並みの荒天の中、多くの皆様にお集まりいただきました。改めて御礼申し上げます。

協議会委員については各学校の代表の方に、地域コーディネーターには全員に、教育長職務代理者である清水 健一教育委員より委嘱状等を手渡しました。その後、清水委員並びに新井保志小中学校長会長（第三小学校長）より挨拶がありました（地域コーディネーター交付式のあいさつは清水教育長職務代理者のみ）。



指導課から次年度に向けての説明を行いました



清水委員よりコーディネーターの皆さんへ委嘱状が手渡されました

学校運営協議会機能を付加した「開かれた学校づくり協議会」の全校実施を来年度に控え、指導課からは、これからご検討・ご準備いただきたいことなどをまとめて説明させていただきました。今後とも、充実した協議や取組を通して学校・家庭・地域の連携・協働をすすめていただき、子どもたちの学びや生活がより一層充実していくよう、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会機能を有するモデル校（境南小・第一中）の報告



第一中学校 第2回協議会

第3回は
6/25（火）15時～（予定）

三原副会長から、昨年度から検討してきた「部活動の見守り・各種検定のお手伝い」について、保護者会や部活動説明会での呼びかけが功を奏し、ボランティア登録者が40名以上となってすでに活動が始まっていることの報告がありました。各検定の事務では、スムーズにボランティア活動ができるよう、委員が率先してマニュアルを簡素化したり実施報告書を作成したりしてくださったそうです。部活動の見守り活動日も、先生のニーズがあれば実施日を増やすことができそうだということで、地域学校協働活動の充実も図られています。



生徒と委員さんの協議が和やかに進んでいます

その後、学校の主人公である生徒を迎えて「熟議」を行いました。生徒会の生徒6名と委員さんで3つのグループを作り意見交換をしました。どの生徒からも中学校生活が充実していること、「変えていきたい」「挑戦したい」という思いをもっていることを感じました。

各グループからの報告も生徒にお願いすると快く受け入れ、「行事や学校のルールなどに生徒の意見を反映させたい」「先輩の姿を見て生徒会の活動に参加した」「委員さんからは『一中学生はよく挨拶をする』という感想が、自分の感覚とはギャップがある」など、しっかりとまとめてくれました。委員さんも「中学生はしっかりしているなあ」「大人だけでなく、生徒の意見を聞いていくことが大切だな」などの声が聞かれ、これからの協議会の活動にもつながっていきそうな時間となりました。



境南小学校 第1・2回協議会

第3回は 7月22日(月)
18時30分～(予定)

今年度**第1回**は、委員の自己紹介と校長先生の学校経営方針の説明とともに、昨年度最後に「子どもを中心にどんなことができるか」の熟議を振り返りながら、今年度は「境南小(境南町)で「こんな子どもを育てたい」を年間通して熟議してはどうか、との提案がありました。さっそくグループで議論が始まり、「いい意味で子ども(らしい)」、「学んだことをつなげる、広げる、そして育てて境南へ戻ってくる」、「挑戦する/本物がわかる/光る/シビックプライドが高い子」など様々なキーワードが出ました。熟議を通して理念の「共有」がなされていた成果が2年目に活かされていました。



新しい委員・先生も交えて協議する様子

第2回は、冒頭で、同校の特別支援学級けやき学級主任の先生から、けやき学級の様子を紹介及びけやき学級の学習活動に協力してもらいたい内容等の話がありました。学級前にある花壇で植物を育てる際のアドバイスなどいただきたいという思いには、委員さんから「農家の〇〇さんはどうだろう」、「参加している団体にも『土いじり』が好きな人がいるから、声をかけましょうか?」など、地域を知る人ならではの提案がありました。「開かれた学校づくり協議会」は、委員さんの協議はもちろん、子どもたちの教育活動がより充実する点でも大きな力となります。地域コーディネーターの皆さんとも連携して、子どもたちの笑顔が地域に広がるきっかけにもなると期待しています。



最後は全員でまとめの議論をする様子

その後、前回のテーマ(境南町で育てたい子ども像とは?)を継続して、3つくらいの視点にまとめていく熟議に入りました。作成した模造紙を見ながら、前回とは異なるメンバーで意見を共有しました。「ホンモノ」がキーワードとなり、自分の目で確かめることが情報化社会には必要、ホンモノを体験することがコミュニケーションにもつながる、などの意見が出て、最終的には「レジリエンス、チャレンジ、リスペクト」を大切にして、結果的にホンモノが分かる『I♡境南』の子、とまとまりました。

6月12日 地域コーディネーター連絡会

～熟議演習：テーマ「子どもの学びと成長を中心にどんな地域でありたいか」～



今年度第1回の「地域コーディネーター連絡会」を実施しました。今回は、「開かれた学校づくり協議会」でも取り入れていただきたい「熟議」の演習を行いました。5つの地域別グループで、それぞれの地域の良さや課題を出し合い、それを踏まえて子どもの学びと成長にどのようにつながるか、を考えました。



「熟議」では、まずは個人で考え、簡潔に付箋に書き、その後グループ内で共有します。武蔵野市のコンパクトさの中にも、地域によって出てくるキーワードが異なり、「緑・公園が多い」⇔「住宅街・社宅・商店街・繁華街」、「子どもが少なくなっている」、「高齢者が見守っている」、「若い家族が多い」などそれぞれの特性がありました。その上で、どの地域でも仲の良さや愛着を深めるような取組や関わりがたくさん挙げられました。



最後は、各グループのまとめを全体で共有しました。「子どもにゆだねるのは大変だけれど、大人の側が意識を変えていく必要があるのではないか?」という意見は、モデル校ですすめてきた「子ども中心」の考え方を実現する上でも大切なポイントになると感じました。

今回の「熟議」のご経験を、「開かれた学校づくり協議会」の議論や各地区での具体的な活動に生かしていただければと思います。